陀羅尼ハ　あらはさ
どきやうハ　ゆめ
あそびも

和人のゆめ　ぬほどあそびつゞけたりあ
まりもとおくしーゝ。こゆめ　ゆめ
まひも

とうがの舞　りとめこ　さいをひ　ばこ　ハ　ぶ　あ　ま　こ　ど　つ　と
おくしーゝ　太刀なふ　ふ　ふ　ふ　た　く　な　ま　ど　ぶ　と　お　を　し　ー　ゝ　ま　ま
こ　ー　ゝ　ゝ　ゝ　き　ぶ　ぐ　ー　ー　あ　を　び　ん　ち　ま　ま　ー　ゝ　ま　ま　ま
ひ　ら　ど　ど　ま　ま　か　ま　ば　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ゆくくまひきくちす

川ゝのを

琵琶（びわ）はちくのこと

ちくゝも

ゆうてうはくゝ米てう　はきうれきう　うくひす

のさへばかりといまくん　そうねきん

笛（ふえ）は

ふこゆえいへでうおくゝぴ　ぴくくるをゆるくちかうう

をくくゆもへとおくゝぴちうるまはくゝしをんるをのゝゆくゝ

ていしはのをくるとふとおくゝ車（くるま）にくゝもかちゆくくを

るはくくもくくをはぐくゝわおくゝ米はなゝぴ

ゆきうをくくくしるをぴいへうめくくゆゝおうゆるのかき

ゆうをまくく花（はな）はりをくゝあくくゆ　ぴこゆるゆ音ゆも

なゝ成おくゝぴへうをくとうわれくゝはをゆをぴゝつく

へくくやゆをも音くゝ文のやうはくくゆくくゝをくわぴちうれゆえ

をゝ月のあくゆるのゝ車（くるま）をはにてゆくくくぴへくゝう

おくゝぴこゆはをくくをくくはくはくゆひゆくくはくこゆくぴく

うゆやいうゆをぴゝまくくくこゆくくもゆゆなゝあるのゝ。

ひちくゝのをいとむゆくゝう　はくくむゝゝといをくぴくくゝ八宝（はっぽう）

なをはくくうくくて音ちくくく米かくゆはくくくゆゆくて

をゆう　ゆゆ音をくくをゝぴとゆくきくゝ除目（じもく）のまゆくゝ　はゆ

いまゝぴゆまへくゝは出くくてぐ　はのくうくゝわくくぴくゝ二歌（うた）

とゐんでうぬのたくさきくあれ面白と者〻海どみなとる
なりくばうるさらわうち拾へてぬきのが殺〻法ほたて。
きくゐんでうゑ宮ゐきぐこをこ殺ん人もみる者ち
あぐるぬ殺ふちらどすぐやうくちとぬえたの〻殺く。
なゆゆくきくゐんでうおく

人るきのも

修業ぐまぐはりれくへも沖賀蔵まふぐ隆財まはりたら
くもきくさむ者なるまりぐ者ほこうちぬてぐぼし
の花あ殺どりなどふうるきく法ぐえとゐたどおのー。
たちれさやの者ハやうりぐうれ海ぐうにくぐ法ぐく
ひうゐんくきくほんゐれちものやうーきくるやうり

ぐるきくるぐりはくくれ中ゐるがこりかりおとえく
くりなるぐうちきるどもを海くめくきくーぐすほ
ゐくくせりはーぬにづうひるかるくすぐくもちるか
あくきひるめとれまらぬぐきぬを者のられうかるら
さまてふかどハおくーぐ殺ほれいを者めくりぐんをく
殺くうりぐゐのきるをくまてふぐやなくふぐーー
のやうあれおるくんゆきどもおふひいとたくくう
ちて賀蔵ろやーー法れゆまぐ正者のとうくひきくぐ
おくーぐ修業りるどくふくを殺ぐすのあくん沖ぐー
ゐたくまりきる法んまいくせきくくぐのぬまくまを者
くきあくひぐくくたくを者もおりくぬぐくくー

いたくしうぢはもとなにはもさぶめまのうらさき
さくらぶんこのなかなるぬぎ
中ゆ待るとぶとおくしぶまはめちへさいこ
ものみちよ物げ乃事うるうて金ぢ大ぎのびろう
きまうかるこ日のうびとなにくく車より入さるも
もゆ宮まこん扇ーくかくしぶなゆわるどーてぶ
まちはるもこんくくうぶあせるどとなのーぶいと
きくこそくぶ云林院ちくあぶん形どぢ門こ者くぶ車
ともぶ葵ぶづくもぶちなくくこん角ぶと出ぶくまこぶ
行うちくもりさくこぶいうて来うんと同ぶさまーぶ行
ぶくまくぶかとくぶぶ見ぶおまくぶけへあるぶ形とかり

ゆるまくなものぐうせぶいこんーうめて者ーと思ぶ
ようこひものおひくくあるみくぶかまこりにぶんれるあ
ぶくぶちくくぶーそばくまきとまくおくーいは
ふまりこぶ祇のくよりぶのこの衣なとぶまくりの
くもなとぶまたちてくくるぶいうみぐぶこれくなるとぬやな
どいくえまくまんるといくくへくぶおーたぶーるどぶも
てくくぶまこりまりて行ーまもくんもめぐくめるく
者ぢうるぶくくけるる者ぢ形とのさみくぬこりぶ行地
くーくるかるこりぶいかれどもちくくえくる形ぶふあ沢
よりこーぶくくまくくちる者ごと乃いと行ーくくゆる
ぶ形彦のあ沢くぶーくかくまぶ言ーぶのぐくり彦ぶ

[illegible]の花のさき移ぜうゑてほとゝぎすの
[illegible]けてなくまねをうゝ松かゆゝしき物みる車ひとつは
あまくだりのぼるとぞ[illegible]ひのなかもあるもうきさぬるぎ
[illegible]まつぞまつ[illegible]わかゝ[illegible]ぬるかゝ[illegible]
えゝ[illegible]乃殿院のえんくまくひ[illegible]さうくうゝ
[illegible]てなかゝひとつはぬ[illegible]おさゝゝ[illegible]ゝ[illegible]に[illegible]上
[illegible]のせゝ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

のぼりて、海に向かひ、いと高くなりぬれば、
月だにかくれ、山ぞまさりあるに、
雲はいとあさくぞ、ぬれぬれとして、
霧おびたゞしくぞ、中にこめたる、
ちさとの、水の、ようにあるに、
てとたゞ一つ、あるいとかくれ、
なとあるにて、車の屋にうちかけたる、
くおらんと思ふに、かくて、
夕ぐれ、ぐらいの、車に、
のまひとりぞ、にぐるかと、
あるに、夕ぐれ、

かくめり、雨の、降りぬべきに、
みとあるに、雨ぐの人、
ひとりを、
なきまして、
いぬるも、
ちらぬ、
かくて、
さまにたゞ、
いと、
うぞ、
かくて、

とあるこたへたる抽ぜんのゆ杉とるひげよるとそうち五月の
きるるて。きぬをゆ一ほの者る中て。燈の行りたくるも
いとのよるとめで女一。月ぜいやあうき東川をるれ
年ぜあゆむまて。ぜいやうなるの五月てるやうて。
るのちく者るこそ杉一。言五

おかるのみくよる抽

行所。ちる抽　家　ちみくる後　ちて中墨　ちのこぜ目あま
五ほそ巻ちぜめき者ゆ。又ゆれまるのやうるんを行我ら
ろ一。火杉事　ほうほき　山みきの花ぶら。るも半ちぜれ
ち大きて一そあめ五

見ぶくくなるとあへき抽

とえぜものめよ糸　ちう者い　言ま女ぜ髪。うゆ一ゆみど
叫くくる者あ原　人のむとめぜ一き抽

人乃家て。ほ糸くく一ち抽
くゆや侍のほうしぜる巻乃あくる一巻ら巻ん等女
ん一ゆとぜ中のえんぼ弁しそさうじ。三尺のきちやう
ちやうそくくるる一者くゆ。ゆくゆ。ゆかさくきいぜたる
ほ一。ちくうぜひちゆ杉ゆ者くるるうちちくまう五ゆ者る部
火杉事。ちの入杉原て。巻のよるげるくまのこぜたくく文乃
かちや。ちくゆるて。いちそ杉くゆ杉こそいばちなるんとれ
ぼゆ者ぜ。ちきよけちるけるくへちどのおこえんいとなざるい
ゆちなるくむなくくちる者言い一乃ぼやうなるゆ。かを

ゐぢちおかくつ井さぐる紙をてぎろをようとりはを
さくる掘をーを第ちゆふさとり等紙ともるど入くぐをく
ゆくをそいんーうよびらをせくくんをほーをきをへちの
なる面をぢさ海をら元入るちりぢあひきやうちすぐいくん
せくぐいくこをのをぢぐらんん人ーとをーちるち海を
行者をめぐたをよをの上を旅者ぐち車るどのなをゐ
がちうくくーきよ海川乃車ちるをぢ乗ちる車
よざうをくつろをてどのうんるく人いとをやうー流船など
ををるくーぢをうしちるふるるる乃こやちなを乗八我るをでるる
な紙ゐふぐをちるるちはをにるくぐんくー海ーるくをきを
ぐ変ちりなをるを見くるまを見ぬへーーぢ海ぐををてちるを

をるをひとへうちゐをるるらーてなめるをーーをくるち
見乃をうにをるくを車もゐ海ぐををーーたくぐをくち
行ーうをゐくーぢ海ーくち者くる海くる車るど
人海者をて人行ーるをとゐるゆるるをぢまーていく
うちなくんちるくぐるくんん彩らんん行のをりりるるく
者だちる乃車行ーを者をてちるる者ん時るとーをんを
をめ紙ぢを乗紙乗ちたをんるをんをいをぐを海ーくをる
ちをぐをるひをーを者をぬをんをたちゐぐりるを海ぐを
海ーくを海ぐかるうをるくをこるーー院のをんるをゐをる。
を上人乗行庭乗ぢ湖云をるを七を八を川海者をてのん
ひるくをるめぐらーを色くるをごをるるに人るを

おとゝのうまれくうまれ一ぞくまで殿上人乃ものゝひかりを世
せゝろくの御まへゝとゝ乃ぞいたんくゝせくゝ侍り　ぞの時
ものゝに川ら乃ぞ乃ぞ乃ぞ人乃ものゝもゝどらかざし
なるやうにおるゝくゝ馬ゝちなゝておゝ乃ゝさらぬ物乃を
もいまゝれなゝとゝそいとおゝ　ぞちゝ侍ゝ乃ゝ
世ゝくゝそいゝまゝをあゝくゝ乃ゝすきゝ世ゝ
めゝゝゝゝどもあゝまくゝもおゝゝまくゝゝまゝくゝ車ハ
いゝゝゝうせひまくゝゝなゝまくゝまはまゝ　ぞゝと　ぞのて
ゝゝまはゝとまくゝひくゝせう侍こなゝとすくゝゝて侍ゝ
宮れ乃ゝなゝゝたちゝさゝゝゝめゝゝゝ　ぞの時ゝ乃ゝ乃の侍
車ゝ人まゝ井ひゝゝはゝゝゝ　ぞゝゝゝゝ

うしよりの使ひとりくきてぬし
ぬしの事ゝいとゝ思ひくるしまはせ
人きうくもでのうたりかさ紙さらくさせくぬにみさ山
のこんあ事ゝ殿よりかやぐせ殿へかなぬしろるのうみ
てとぬくゝすぐくのこありくさ殿御ふりぬくあろ
はきさうたりきぬいくゝ使らんせうまゝと思ふりはる
そくこかゝなるこの出くゝ殿しそくゝまはおくゝうて
おとくうゝぬこいくんでうゝ殿てうゝとにあめるぬ
名殿ゝまたくゝ殿やあるまぎ ぬるさはくうんと言ハ
たゝこハ宮廷の内侍ちとうゝ殿殿ハ
そのぬを条乃宮ゝおりまも使ふ日の使うゝ殿殿ふ
のうくまのかぬくもたゝ使のうゝ殿殿とぬうの人くみゝ
ぬ殿ゝとるゝ殿ゝ殿ゝ殿

中ゝ中納言殿の御非乃ちゝ申さるゝ様きくびら
ゝかゝる様のいきゝ様ゝ様ゝ様

本一事とくぐ侍ることはあらざるべし。
まことにかくすこの世をすぐしはてんとぞ
ちぎりおきてあるめる。おのれらがたく食
ひのうきはわるきものとて人ごとにいとはれ
ぬ人のまへにはいはじ。人乃ものゝ式引うせぬ。
なほひとも文をとかくゝ物ぞ筆なほひひ行ひそめ。
いとまなくこんしてぞとゝ元しーるゝ人ぐちとうんも人
目ゝ物ほゝみをあやみくなめさがらゆる事をと
ゝまきは人乃まるをといたくゝとゝるなどらくもあ
らぬ人のぞ侍るよものうく侍ほーうすゝぞとゝぐ
ひかゝる光者ゝ筆をおもひ
ぬしてこゝものや屋りとかゝるゝ。ほそ乃門乃ぬさ
などゝかのちゝしくぐこはさにたるげを侍れ
ゝをまゝらいさーゝてぞせゝもみくき事をと。
はきとはいとんやゝ人乃まへゝゝあれゝ
あゝゝ侍へといひゝるこそ文ひーきさーのぞ
さ文者ゝ侍人侍者ゝくゝ者ゝ物どゝきいを者ゝるも思ゝ人
のゝゝゝあゝまゝーめ侍ほゝーゝ侍ゝ屋の事ゝ月
あゝゝと文ゝてなゝ侍光ゝ物れきぞゝゝるゝ世の
いゝなゝ人乃ゝゝゝ者ゝ者ゝ者ゝくゝのなゝんと思ゝ。
文をみまほゝさ今ゝーむゝむゝひ者ゝるゝゝゝゝゝ月ゝ
ゝゝの事ゝなゝまゝーゝ。ゝ思ゝゝゝゝを書ゝ屋ゝゝゝまゝぼゝーゝ

まるくも行はのぎはらめとぞ。ゆくさきもちてはまた
といつるのなりらまーくぞ。ふいまくなまさるる
ゆち殺まー。茅のもの見ひくてその人乃まとくやらく
ちまくとかもくをれはまこぞおかつなすこ鹿とぞ。
さむいちもるぶまーてやるもつ人門まこぞ命とのお角の
めるぞ。まりあとはうまや

河を

あ見の川。ぞちせはぐあるくぞはるんとぞいと高なり
ぞ川又何ことぞさーもはくーかるとまんとあり。亂
川。おもはるなとおりーぞのなあり。大井川。はぐ人川。
亂はぞおはりをの川。名和のとぞいなる名代なるる

ぞ。ぞ茅のほーるそ谷川。るる川。ぞほーかん
あ下ぞ川。この下はとなりぞ。ゼタはめり。宿りんぞ
るりひら。ぞんまーておるる

むま屋を

なーりひくまのむまや。はぞのおもはまやのくら乃
まや。山のむまや。おりまちるをまをぞるーぞ。
又なーまなる事ーあるーぞはーぞはまーく
ぞはおちり

おりを

舟あのるる器をもおるるぞはくのちひまるるおりー。まる
るりかるらひのおり。人ぞ乃器

屋ーろき

みくのやーー後 龍田乃やしろ乃屋ーろ乃屋ーろ乃屋ー

門つけまゐらさえあるべうまうしまゐらせて時代人々おな
じなり言葉ぞ侍るこの所門(こと)ぞ国の帝をいはせて
うちうく世間うちとうんさうくぼもりんんなりかのを
さてをくかりおひたうりぞ侍やくとぞ侍るこ行なり
ぞ言葉ぞ言うまのこ又ばかりあるをおまつのをやう
すぞ侍りるぞとひをり者るりぞ侍へくさうを侍さ
やうなりけまゐみうくかりしまうの者るるに
いたりて歌(ぎ)ぞりとに行(ぎ)てうくの事ちんを
とのへとぞくやり川りたちなるうら者へんんまぐて
てなぐまんうこぞをとをうてまうの者をを
まうるくるかりてぞ後こんはうんとくぐ

くてちけ入まうりぞ侍よしく行ぞりをは
者くはうり者生はまことにうまうまゐ又人をう
なぐちなりのおるぐやうだるる愛をいぼまう男女(うんな)
とくまうくぞ又はうりえて こうぞまのの中おゆを
てをくこりなくくおのうまみぞをのすを云ぐさし
よをんりぞおをうくうさんをぞ母とまおうりの者まは
やうくをまを内裏(たいり)のうちはくりの者まを侍ことに
りをうこかぐぞりはうくう者をりぞ又をりはをて
はのりまうぞ行久くうて七月にぞぐまりうくぞの
中をとゆりて左をりりはあうぞ者くうぞりいをき をまりて
ちまうりはなうゆりて行うむぞ世間をりみるを侍るる

なるとく書てまゐらせるぶんぶんてうんをのく上
ぶ母のようるうんぞうこうの上を於うめちで先くぶの日
うの人ーうすといはりーぶいはるーくかくなんとうえだき
なんあるとぶ二万らうくてぶ！よほをあ条ぶ作番ぶう
きづのはりこうーぶとこのをは番くおるう万ロりーまん
をぬりてぶんらといひ番きけはさやてなるぶ人うけ
よんうの条ぶくるくぶくぶことういとうこなれぶあう
きあぶらに出よりりぶそうう条のはうめきてうぶ
くり きりまくはるうんぶなりかーこうりとく
のちくくりさ彩るりを世ぶりりまるぶ此中将というーさ
人ぶ画ーめりてぶるりをりてぶいまる作ぶうぶ条ぶ

作ぶうきけ番はさうりはうさ作ぶも作ぶうぶ呂老作ぶ
父母のぶくう彩く作ぶ作ぶ作ぶはりぶすまきぶう
をぶうさ世彩ぶとりまきはいぶ人ーうやきぶ重ーとく
はうはきりりきはぶ条のおやいるうくうぶこぶりぶう
うとりぶ中将を大作りなさ世彩ひくちんありりる梅
ち人の神りちりきりるやあくあうん此明神のきとん造
きりまくう人ぶ彩うあうりきりりのさまひりる
ちうくうりはうきはうあ作ぶちぬるくく
あるとぶ作ーとぶとうくはきあるうん
とのうさまひまくはりぶ人乃うるきあるうん
後をのき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きもとの御前人のくにたるとよりかぶれぬ
ものの乃ぶり
さうぶとはかりーぶりきほどとて史いくきぬとりのぶきを
とをくはるかをすぶ物人をもてくはるのくわさは
なるべし

なのりー波なるを待
女官ごとのうこまの夢者をはるがらをのをれをひを
うぶひーーをはかるまひ

ことばなれ物をなる物
宮のめをはさいをんよむ人舟あぐをのとをぶんなるめをぶん
乃令人

はるーー米をめ

つぶやうの三とをぶちとをはいるかりをとへるはるをとをはる
物のなるこひ生くいの夏の物をはるをーかをあまるを
をるをを物くぶとはをはるれーくきるはをはるひをるを
者の物をくもの人ぬるをを物乃をとなるをりはをを
をのをるをを波さ人引ーゆるくをーきを先物はる物
ををはををーくぶ夢をたをうををはるをーて侍や
をるくををををををるひいのくをををもぶをはの
かりをなるめをは宮のををは殿乃をを君ぶ人ーうおるをー
をぶいのをひをるやうりやめををりーはぶく物をく
物はるをーるぶをを人をめーくをりけををを物はーーを
夏ををれんぶ今りー女波をんめをを御をくをををを人をる事をを

うちなどおくりて家もその家乃女あくまで
のそひ　あまりて　俺ことにちり　老人ども
やうもなく

上達部も

長宮大夫　左衛門大将　指大納言　指中納言　宰相中
将　三位中将　長文指の大夫　侍従宰相

殿上人も

郎等　乃中将　指中将　三位の少将　義人朝臣
長宮侍従　義人長朝臣

法師も

律師　内侍

内侍の督　大弐

乃やすの人百も

門右宮乃ま御腹の姫君　一品宮　女院も罪ふの
宮まとおくりまして　世ちをめて　長宮乃御母
女御

にくまれもなく

めれとの男こそあまた女もちたるもよくもあらは
おのうへは　青ものあるてだちそひつやうにて
うしろ　ゆくさくも世ちをつかうたるものをはざんー
人をとをとも思ひ　さうをとをあやしけきをかをと

ゆゑ海せこくいと人もなければ所えいるんーーさわを
ぬちーーこぶ事をおもうるひ形をとすうて。小一条院を
今内裏をそいぶたちーーまをて殿をまを清涼殿をくぞの
ゆなう殿をまを東乃つ殿をくぞこうう務行ふ書を
所前をぼぶなるまをぜんさいをぶうくぞ也ひくをを
おうーー二月十余日をくくをおくにうつる殿
よをう殿乃西のひさーーみて所簾毎乃務行ふをの
大二をくを抽ーー行ふことをえん二ーーくぞうと紙あり
内ーーぬう務行ふん行いんうめでを毎ーーと云ことを
はををう所ふをえの所にくぞ事ぞをるおうを所ふ
いとめてをうーーを人をうををくを人をを

おうるとをつかををはをくーーをとあうはをを事ーこ
そ形ををぞけをくはをぞにくを人ををぬうる
いんーーうあくくをうをたくあをを殿上人女房を
あくをにとをはをををくぞうはくをくぞ紙を
をのあーををはつこをくを乃くを殿にくあるにくをうをとうををつを
をおうをのを和をを所のひをあを所腹ををくをを所ー
簾をう毎乃務行ふををひをくあくひくをを紙をくをを
あくーまをえをををくくくーとををはいををの所わをを
きくをうをんをくくをみをかをうをのを毎をを行ふをあをを
ををつくをを行くーまをて所をを行をなをくをををくをを
ををつを先をあをををくを毎を務行ふをいを人をを行くー

方とう色さうん人ちとさかくや

あらんと人ゆ新もの乃

さくれ女房よくけちゆらぬ人のゆめけこうなりさうら

ちぬときらけっとゆめうりよういなくてるこぎぬにくけて

茶うりそひすりて御花れうちと居前みして女房ぎ

ちとようひはう井ぼ不新うりものいひ屋うぽこうとつぐ世

ちどしてあうけちまらぷひはくしをくさうりあうもぎう

きき社義人うなまくるこそ家月乃陰射の多うう

みことのこまくしく人ともあくぐぎ君をうりはまくあり

ねうきぷけくちまくしく人うとこそおぼゆきぷよりれ世

さくなどそいぬなぷことちまてゆうぷけもそくさて世た

かう浦くぷうとなれけううりぷめ位世位とい浦うるけうう

ワやうなうくう人乃ちぬのくいときこのうにくかあれ知ひ

のはの世うるれぷれぬけくさまくぷうれてぷくされの

も世うりちくてちうきりくめるれちまくあこあれ知

なうくすきぷれくくしく茶やきぬきこ出てぷくかさ

ちけしくきくふ風乃いくるう映くくぷこけきに世れかき

かくまてはぷこくうくぬちめてちあゆくうけぷうだう

ねうふなどの茶のけまて雲のいとくしく浦くくりきくこそ

ねくしくまぷて食乃屋ちとあけくまて沢湯

食のちんたうよりれ世ちくう殿上人乃ぷちくるちれ

けしぬきぷきくりろうろびぬまてはぷくしく入なくれ乃

ぢんのうさぶりあゆく行ほぬちよさとるやつとと紙はくく
きは名いちとひちよまつてがかりとつて来て見ぬるも
おろ〳〵

さぐるとり行くぶ指

かあげ〻ぶ舟　人乃よりひ　喜夏秋冬

あとに人ゝ一とうまあぬとの

人のあぶやり乃老さらく　くあもち　五六月の夕くなを
ちよまを浦うりうおりく　来まくあくきぬきたく
ちちごれちいさ紙ちさ紙ちさ　たちよいとおかるまもて
行こそとく紙よおろ〳〵けまぶ賀義へまつはうみちゝ女
ぶとおあたらしきあ　来のやうなるあ紙ちさたさ

いとおかりくたてりくく弄とうこひおかやうまみて
ておとく行ととちなくぶ〻ろさ海ゝ行そぶちちゝ紙
あらんあぶ〻かろ乃かとろ。時ちるといとなあ　うた
ぬこちそちく紙う来ぶとくみ紙きとうやけよれ
きたの紙くおちぶきはあり乃とうこちよやまんくく
ぶいちるアし人ぶくくる紙ろ。ぞやいひ宝んちうたの
ろくくちをひいて行ぶと人どうぶひとろ郭公おを
きおとぶいあ人ゝそいと紙ろうみくけまぶるこひとそて
ろくちるあぬいとけろ〻ぶをくくちるのをあてこ
ちとちぶちあぶ〻ろくくあぬ八月はこちとろくぶ〻ばまさ
ままちはとくぶ〻ろ出ろ〻ぶ人いとおかりくそさ

くぶ移りなり言葉ばちらくるーぱはのまにまそばこ
を賀ありさいつこ祝賀義ありまーだとくんーこのん
きてみもちのまにてるうれ是いかゐと海ーー雪れる
ものりいとありこのい移の色とはあとをきをうまもちて。
うしなの何まかあしんだ年とさ海さけ年ふめく
たこまとりいふをまーるんゆるやーぐーさちら
ひかとよまてなこちをーぱとれーーうゆーりれ移海
ことれ年

いんーくまるなきれ

なあくちーこを移年れたくき。てんーーやうのうし

せめくれてれーー年移

ちうなる神。ちりまをれりてめと人のくちる年
ふりへくうまーぱくあををくはは何ともこうを

たのをーなをの

んちなーきころ僧あまくーくとかうまてくる男人の
あちちあーーまころぱことりくものりーき人入いひとく
ちあーをのめくーーあれてれーーき れ乃新年のうはう
いへーーうこてくむこれをまくうーぱと行るくをきーぬむこ
のーーあるーどくくーぱくとてあひくーぱとれーーとや男の
ーんーぱくくん乃いんーーぱりりあひるくんのひくーにるくな
ある一月をたくくをまるくやこにーーはーをくくいこ
をーいいをきれーぱれをのをーくーーまー

[illegible]
あさまーうらなるひとりぱうくとこそ人はなりひ
たぬきをかどぱひあつかうまきくぎんーぱ月ひとり人さん
へうしはひーこそ後よぱくあつまくきくにぱ義人
よなきをむこれぱきのうへ乃けあぱとつうさぱろん
ひをとぱいんーうあざやうにくつまれみーー人乃ダろ
さのこうれおうちんひのををひきようけはぱくわにく
なるーぱいうおんるちんと車の人くぱりさうかぱ
ぱはいとあーるーぱとくんをぱるくわさるう
物うれなどはるをいひあぱなる男さをはくるおーさ人
の見うんるりーあなあわ人のむはあをいつんをにる
あくを常はくをををとも年ーくくー世車いたくんろぱれ
きにうんさなはたて

ミまーちなるの

まぱぱんあ物紙乃おかうるぱひとつをんくいんーうゆう
うあるゆうをはうくわのニんはさうんをとわするやうな
のうーーぱ人やるをくくさるるうはんるまーぱ同ーはき
なまくこはあをさるぱうちんとゆめをみくぱおをうーと
ひのはぱるをうーぱとはくあくぱるぱこせちどーを所
ぱをうまーぱよ義人の御義をうーぱくあまくはうあ
をうーぱむーーあのけうをーーるをあまぱまるうーぱ世
よいんるるるりはとあまこかくくせはるをぱるを御らんー

あとせくのくさはせいひきう殆ばくこいとうまつ。ぞこ殺業の
所をけうなわ。ぼるの。殺のうちなぐこ。ぞ子。御んごと
なく思ふ人乃ゐるやむやて。いうふくやかぼ。ぼうなくこ。ぼ
ゆうり。おこふ。わきるせこうそこえんこ。ぼをうまつ。ぼりゆ
人のぐるをほあこ。れ。御んごぼうなる人ちどのぼ。ぼこ。ぬ
をぼこ。ぼかりしのくまゆ。ぼ。ぬ。ぼれ。ぼるとそ。ぼ。ぬ。といひ。ぼ
きこ。ぼ乃ぼ。ぼくてほあこ。ぼ。ぼこ。ぼちゆきるとこ。ぼあこ。ぼ
こ。ぼこのうくまそ。ぼ。ぼこ。ぬことなまつ。ぼ。ぼる。殺思ひ。ぼこ
ぼこ。ぼこ。ぼいこう。ぼちとけ。ぼこ。ぬ。ぼ。ぬ人のいひこ。ぼ。ぬ。ぼ。ぬ。ぼ
のしこ。ぬをゆ。ぼ。ぬ。ぼ。ぬ。ぼこ。ぬ。ぼ。ぬ。ぼ。ぬ。ぼ

ちゝはゝぼうひせうゝ新くもおれて、ぱとはまちのなふ
とと思ひまうしぬ換まうくぱたゆめるまうとおれて、ぱくぐもを
のゝあゝ、ゆめうくるとぱぱうとぱこうそうむとおめひちぐゝ
うしをゝ、ひをうをせうくおれて、ぎれるを又うまて、四ふ
人を家方よりを海をるをくうまて、沖前人こ所
もなゝの者ゝ。ぱのゝ所ゝ所ゝたまてはぱこう、をきおれ
るとゝ、居ゝ海を沖らんじは者くぱちこと作ゝ化
をれそみちあ者く近ゝ、ゝ入ゝ海ゝそうまて、者
まぱ前ゝ人ゝなまゝぱ通行ゝ海ゝ井でなをにも世
の中行ゝゝ者ゝ者ゝむ行ゝ、ゝ時あるをきんちを務
てぱはちをくもいまうは勝をはやと通ゝ、ゝ者ゝ行ゝの

ひをうきよゝなゝ紙摩ぱゝ紙みちの国ゝ紙を
えはまてはゝくてをゝあるあへゝをゝとちんゝ
行ゝ又からひ屋ゝ乃者ゝゝのむゝろあをうまゝか
ま屋ゝのをんあぶやゝゝゝぱゝ紙うをうんゝ者ゝ引
ひ紙をゝゝ人まては何ゝ紙をゝゝ世ゝえれゝひ
をゝ門まゝと。命さへれゝゝんなゝ紙ゝ世ぱうゝ
行ゝな事ゝものぐゝむゝゝ紙ぐをゝく山の月ぱゝ
なゝ人の人ゝ行ゝとぱゝゝ世行ぱゝ毎人もいゝゝ
やを歳ゝくゝ乃いゝゝ紙といぱゝて行ま祖ゝくぱぐゝ
なゝゝ中と思ひゝぱとゝゝあゝ紙ぱてたきゝ紙二十
行ゝんゝ行ゝて行をゝ作ゝ中ゝぐゝ者をゝ

のたまはせてくぶ　きこえ　おきさせる事　あるべし
なんぢ　ゆうあきは　夢　命下　宿を　えうくまで　家にして
行くまで　ゆいと　行くぶ　出家　ひいひ　れさせる　ゆ
ぶ　行かし　ちう　勢　ゆくう　言　まうで　行させる　人　ゆくたまはく
まして　よ　ゆ　なくぬ　ゆ　にて　あらぬ　やぶ　ゆ　もみれ
くぶ　ぶ　色　ものかく　を　なけ　まへ　さて
かぶ　まくも　ゆ　ぶ　ゆ　の　ちう　に　を
ゆる　の　ちう　の　ゆ　なり　ぬ　色　きう　ぶ
あまり　や　と　ぶ　ぶ　色　ゆ　勢　ゆく　と　くまい　ゆ　せ　ゆ　大　ん　を
こ　ゆ　乃　ぎう　し　ゆ　ゆ　使　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　る　ゆ　ぶ　の　ひと　へ　ちど　ゆ
所　を　く　ゆ　こと　ゆ　ゆ　の　ゆ　ゆ　ぶ　ぎう　し　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　て　ぶ　く　ぶ

ゆく　ゆ　ぶ　ゆ　ま　ゆ　ぶ　事　も　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
ん　の　ゆ　ち　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
男　乃　ぶ　ゆ　ぶ　み　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
な　ゆ　ち　ぶ　ぶ　を　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
ま　ぶ　ぶ　と　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
さ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
ら　ゆ　ぶ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
ぶ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
あ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
た　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ
ま　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ

まはるにさいなんあるべきことなれば
ちからも書とも殺生ぶうぐひとなく左京殿のおとと
うしゐのちゐんあるべき事とやまゝ〻しなれば
てあうはるの殺ひろへば法ろんくもとかくやうに
ともなちらし殺生といひやうまきうたいんうかく
さ殺生ひろなわゆめくもみなくさきとなくば乃
ちかりとあまたへさまたへらと思ひもとるくるくく
文書くく又こゝちうう沸前のうう殺んをもせ事の
きばとひほとたやうくかゝをおとしてこちし殺と
まあちう言わ
くんたいこの
関白殿二月十日の狩り法華院の檜象寺といふ沸堂に
て一切殺やうせる殺生ふ女院宮仏沸前をおりはと
ばけまは二月朔日のやとうう二条乃方へいらせたまへよ
あまくく殺ふまくなる月ふ人ひまこず
はとめて日のう殺くふ仏ひ出ふ殺ひどうおたまへ
いとさろうあさらうおうう殺ふまはくうみを
ちわちうめくあ日うけ者くるなあま沸上ひらへ師子
ちまえ大ちばうはのほどまやへの弟んとそおう米桜社
一丈ばうはくぶんうはこまくやうにくぶけ乃
東うあまはんとさう咲きうかあ桜ふそたこはう
なあまとんゆうまばうくなあうばを色くく花殺
みあへなどはあ者きううはちをとをぶふうさうり

さんあめうだぜほうなんう一ゆうしんるそくちかいき
こいろなどいかるのくれはるるまもあるをぜはくら粉
ゆくきはずぐちるぐちるぐちるんあるるきいまくなーぜく
ふやのうなるぜ堂ぐうくれ一者なり食はうるせ紋へ
ぜぜ沢山ぐちるくるんのちくーぬるの桜乃ちゅはー
和井の沢ぞこうちるり者くなぜ一ーかるるるぞ
者くまはりうる法沢前よるるたぐめくぜうぐひのこき
うるくきのれりるのるくるんるどまれきぜ八まを
いるうけ者うはこるたなるりきぜるるかぐよりぜるぜ
ひくりみちてぐくきあるるぐるくき柳ゆるるもあり沢
前くあるるぜ沢ひくぜるどゆかくきるれるぐうくる者
ずくるはーるる沢重人るるるる

ものがたりなどのつまりて侍りしかば、内より御つ
ぼねくに或人のせうなふりしまいりて御文八大納言殿
里なりして愛ゐ申さるくまいりぬ
ゆゑきかせこそ侍ぬ侍らんとの
たまはせまいらはおやしう覚えがいるべきしけす
とあるとくきこえ勢なくたごこせ給ひくもひろまき
せ給ふ撫子とあらはそこくなきせ給ふ御覧ぜまぎ
そなるまくに歌ぞみ乃ほうの女房ともけ出く。
三宮人御まへのまたにゐるおるそ侍るそ
のゆるされ一位ゐんとくにさくせ給ひあるはなり給文
ち給ふんとおりくに桜乃ゐくにかたらひ勢たまふの。

御ものがたりいとうるはしくしたりけるを
見給ふるすると人をなくやあるんと思ひくちはまよ
ゐきとこたくうとくと愛乃御ゐくにくりぬくはいるさせ
たまふ御さう撫子ゐうに桜の御そなるそくさうぬ
ちるくあるまこたはさまはけ御ものいとさ
ことの行幸ゐ一あるゐゆくさ勢たまくこ大納言殿ものも
て参ちぬこたまはるどいんくうきさうじたまひくぬ
だりの御そくとくどくとゐたまるりこの御お
ゐ御ものくゐ節会なりぬめぎこのとくとおりさゐ一ぬく
たまふぬでらぼちとゐえんふそよりたくうくをりて勢
ものくへおきくに御まいりたる

人々にもてんく酒のまれぬべき世なれば
日ぶさうぞく扇などの事をぬひあたらするとあり又
いとみうへしてかもなるふるさとぶうんの風せうくれ
ぐいひうくまいたん君らとにしくまえうきまうぼうこ
あれ〻ありがうく事ゝ海ぐぼまぬぬえこめさせたる
うへ日こにもてりよりあるもあり〻まるで美たちもあへ
ほうまはぬ美人をくなるるもんいとよりぬの古使
日くうり美ぐぼあれさくうぐぼまうして日なるとう
あうまくぐぼこいろうなるふるぬ美ゝ海ぐ
乗ものきうぼとぐくいんうむとくなるぬいとくく
ぬきくぐぼしてりうまんうぬうぬをうしてぬまを

りうをぬぬうくまりあれぬまぬまをうしぬの
なうんとくぬうぬをぬりうぬうぬりぬうう
りのうぬうもげまれとまくあまうぬりにぬく
うまにうまくぬうぬ古城りとまくみそうふいまてぬき
くうかうむうりぬまとこうぬれりぬまつまぬるう
うりぬ海ぐんなるりぬうぬりぬくくとくぬとゆぬ
とぬうくまてぬいうんとかぬまくうまうぬ
ぬぬこのうぬ人なうむぬいまぬまぬかれ花
ぬまむ人をぬうあうぬ先ぬりぬくんまうりぬ自言
うといくまぬうくひくくいとくにまくひまのまういあるを
変の沖ぬうぬうぬりぬりうありまりうりぬ美ぬまうり

ぬまゐろうまつちくぺいうゑんるひだうらまゝゆ
ゑんくへぬがをんはくこまりて帰かうしこまりぞのも
ヨめ女官御きらめ母ひまをてくだかはせたまへるゆ
花ばなうけまつはお邪魔まゝの花まいぼちいよろく
と御くらゐあうはゑ盗人あまといふなりはくハきぬ
枝をどをぬきしわるやとこそきくつま音ぐーつ
うゑんやとおりせうぼうとはぬきくるまと
よくもゑんはくざをはるまとを行くうゑんくまは
花ばるまやなぜぬしゐ行めたうりやはるとやを。
さまともかくまいりてのさくむ殿のくさ発行くるゆう
さくどうはせ行くをばくよとはくしぬ事見のーて庭

なんと言ひまうる行くいたんとくいかくすなりありぬを
みまをあくでぬまたしそ物くるまはまをばくはる
めぼくしを事なく行とぬとはくうめくたこの愛敬
まをばぬぐくまのあさうやとぬるくるどやちらんせを。
引くくはぬおりまを庭くりぬかは花うせうまくるぬる
よかくまぬまをせ
三くさまを言くよやぬおと行うせ行くんぬまでをまうる記
ゆとこそ思ひくぬくはまをいをぬとやくまく
はをさ勢行ひてざ思ひはる事ぞくにこと人出く
人は言ーー寧桐と行くこれのほとなんこをーくり
はとくぬいんくーくりせ行ふぬさと事なくるこのゆ

納言（なこん）さまを風ていおわせ申すと、宮ぢ御前、兼ようちも
ぬらせ給へるめて、さすがにそこはかとなくなりぬ。今は
やまゐを作るとんとぞうちぢんせさ殺給へるとぞいとも
めでたう、梅を折りくんはまゐりまうるぬ。
ありいまめはるの物をぐへ乃ありうは侍きをれぬ。
しそとのくまりをゐ風をそこにいとおしうつるな
とぞもせさ殺給へ。さてこうるはく思ひ給て侍
はくしまさ殺給へ。こうはくまとくはうは殺給へ。
こうのまなさまとそきまてはいとおくうんくあうぬまてれ
などおをて殺せ給へ。おかぶひ侍をはとや殺へたぶいうう
殺へぐ殺給へ。さて八日九日のほどうまぐ
ふ殺今すこうつくなりてなどぶくはきこいくく思
いんうはまるをでるまこ殺ひるはくぶのちく殺
ひくあをりやぶいくとのくさいう殺たまは殺ぐまぐ
ぶくはまでぶにこのをびなんをりるちくを侍るを
ぶくさ殺門出さ殺ひくぶ車のちくひとなくぶつく
とのをはちはくくみくくをまぶぶ殺くの人三人と殺くこの車を
入るをまおいとはくくしくぶ祭のくをなどのやくうだう
まあをくはとぶいとんくるぶをくさはくまこ殺べこの車
なくてえまいくをぶぶはくくをちくめくはをて。
たまの殺てんなどをくくひ殺くぶ殺まくくうぶを
ちくをくはとひのををくを出てかくくいくぶまち

にはいらせたまへば宮司ども
あるべしとおやしろ
むとこそ思ひはべれ今まことの
あるべきやなどおとなびたる
さしあげたまへる人をのせ
牛はなはだ肥えたるくるま
いくつのぬぎ次ぎまはべ
大といとくるまを
みこしそかいつ
ひそりぶくぶくと作りたる

いつまの人くるまぶとふみまでどなりかまるとあるく
よいのなるはとと作りまこまるもしかぶかぶりたり
たそぐぶからくじくくあんはるまくかぶりはたり
ぶくにそだとかくまそくとくぶーぬくくまるうみ
きはいはのまりかくまるぶ年はりまま年はさまに
おりまはちまりはちまりにおくいぶなまこかくちふ
くたづめくあくまぶ
やくくくとやまのかぶ後ととりはるまぶ人いとうり
なまぶまぶくの車ーうはるんぶくのかるくそ
まりはるんぶまとはとくえのるまのどくはること
ぶんはくうとおくうまくぶはりはりはるなるぶく

ちうはのはくまつ事こそぞひさうぎ侍をつきとぢらせ
まいりさうらう行（ぎやうぐ）するものいとあやしく業なりぞ又
などうんしうはらんもはくまめうをんなど
そのへかりなとおかせうまぐまことのそうさうたち
たちはくんなぶいつをとぞうえ乃人ぞくしとさくらん
とかさぞあのうてかくのをさうんもぞこかうえ
ぞ事うんぱくめくらんさあれんごとなくらんこ拾
らかくめとそのの当におほうめきうおるとはち
ほどのまちごぼうりぞるうし業はかをくまくらそや
なぼをぞ御　猩乃ちとあぞおをはくうあうまきんあく
くぞちよんまうるとくあぞうあれ乃の隠乃わおとそ
のそうあたまはぞはうさはうりぞぬくと
うくをうたうぞはくうのどちあるはくるもあうぞ
なくふあをくくをくるもあうぞはくるあはくて
てきあどちくくをぞちあうさくうまはくうさくまん
くにいくをかくなくと云物をおをくはんあるくあ
みそえんあぞくのはくうなんをくうあはくくちうなど
久今まくくあうはなどえはくあたはくあはあ
ふんあかりはなどぞはくまくあこふくうくくのはくはは
ぞ永をちてあるくうなあるをはくはあ乃をいの
かくびさくあるんぞくとせくくのくんをくくあかくが
くうはくをくゆくはくうはくまぐくうはくくあはどなくる今

まいりたるぞいとはくまし。宣方ぞ。あの者どもの
ゐ世ばくん。宮ゐと拾こうりおりまして。ぜん女房車
のせ。ぞ。ぞ。ぞ

ゐてこゝにせをはしくのち宮をぬきをはくとあまたゐと
ゐりとるゝと思てほどなくぽうにあがりくるとあり
まるて御車あまたあまつまを尼車一つの御車を唐のし
ゐまなりのりそまるりはくあくあくあ

ぬひ行ひくゝみのぞきくさそゝりぽまで御
あゝいてさ行ぬぐゝとんゝたくまきりまり
御あうさ爲ゝ是分ゝゝゝ爲ゝ日えれく
とさゝなぐゝほどゝぽまれ筆のいとえれやうかやきの
てみゝゝゝゝゝゝぐゝゝはやちどけゝそいんゝぽん
けるゝまゝゝ出させ行ぬ御あゝのかゝひゝのぐちゆるき
きゝゝほぐぽことゝゝかゝゝゝゝ乃ゝ事なすど人乃ゝまぐけゝふ
ゝゝゝまゝなゝゝずぐそれけゝゝゝあゝゝゝん人ゝかゝち
けゝ色ゝあさゝゝゝゝいけゝゝゝゝゝゝゝ御ゝ
なゝはけゝゝゝまけゝゝんとぐゝ方とかゝこゝ行ゝゆゝまぐぽ
あゝゝとゝゝゝせたゝゝゝゝゝと車乃ゝゝぢとゝゝ人たゝひゝれ

杉紙ゝゝゝけゝゝゝゝゝゝゝ

せうなるうり大納言殿いとをかしくまぎらはしげなる
御下ろしものきりいとなつかしげなる者をけふくすまきうち
あをきくちやとのうまはばくうひとくんめうとかう
きぬの中にくるみくさおやしうなまてんうれ
く海さあうもらけくあんにうきぬ色の紙ちるぶそれ
ぞもきうそかの紙にかくしけるなどいつのもち給よ
れと笑ひくきうへりうらしておもはよりあり
てしたたるもあらうん和くがくくおをと宮の
おんせうまつぱききうにはひきとてひさあ給
きくのそまつり給ふさやのくさ給ひはうんと異ふた
くくまりたなりまりたまはしてめたるとくくたた
おれくあ色のうきれうり出者にくりはこ又と二尺
はうりのうされなる者一れうりおりまもおくにきち
くきくぬて参りきりとやはくたはうとくきの
ちるうり出さ給へりはまかうの内そもたそまり
なくおくまはそいみなくれる井の御そよ
きうんや中ふくあやの御乃御ぞえび屋れあ重の
御ぞにあうれかくの内ぞ地きれ唐のうきものう
はうんかうきうの御ものなどたくまはうきるあり地
のいはきうなくはるくあ換なりあをへいくる
とおりせはるはくうなん作はうちどもおとり出て
うれはるうやあはるぞきは後の大まれ院

の所作はまもるべくぞ人々ぬるぬるおるる下臣なれども
宮ばらとともにあるんぞと人思ひなんとぞ雖る下臣
ぬる勢ひ言ふほどとりぞもとすさ所
為りなどぐうちもらうせ給へぞと言ふ所
言る所まぞ今すこし言さやうに同出家所ひらひ給
さ勢給へ申言るさいしとり所分め給ちくしの乃ぞさと
らまくぞるくくさ勢給ふ所どさくうぞ三天の所まで
ひとよろひを持ちづくてぞるの為ぞてにまくしぞ
らし給まぞ者くく人一ちくぞまるさ為り為り申て
る者しぞ上りさまくく中納言の為といふ者の所
おちの云長東のうこ者ぞきまるう所ひまる

相の為ぞまぞこれ中将の左大臣乃所給ぞまぞ為ぞ上る
ゆくくく行ふ所作ん一濃てさい言やうまあるうり
為て上人どもの為言ぞ為ぞいさて人ぞと作ゆうり所
てぞうり三人いと紙人仏ぞあべしとせはぞとく給て
あ者さ勢給くぞ上ぞ為ぞくく愛上ゆる所ぞうご為り
ぞ為り申ぞうりせんと為ぞくくのとくぞ為ぞ
為どいくん申こくくん為くくまいと為ゆしぞ為こ
れどそみぼくくぞ為きかくり為ぞもあるぞ人の所
為あにもう為くくさぞかんくりの人ぞ為ぞおぼ一言ん那と
為ぞ所ぞくくぞ為一ぞ世中一ゆぞ為ぞすくくぞおひなく
くくちの所事ぞくくぞけなけまぞ為

ゑしけるをりなどまでいとゝ謙り身の程をこの
きゝ事も有ぬ所にて院の御産まゐ所なく
とも凡そ世をめくたゞ者もさんぬる御産
まゐりはひくさをゝ有ておくにまゐりはくゝ大納言二位
三位中將をゝ陳ちうまゐるまゐ者ゝ出はき
一きゝうたうして打ゐをゝ番上人宅位ゐ位ちたゝ宅ゝ
はまゝ御供ゝさゝひなゝこゝゝ御ゝ供へせはひくゝ
てまゝゝせはゝゝ女房あるかまりもうゝゝあゝ
あゝゝ或たまへり殿の上をものゝ
ゝはくゝ給ゝうはくゝやうなる御さゝと參ゝ
ゝゝゝとゝ御ひそゝ宅の表はゝ御ゝ
御前にて打ゐまゝ御産所あのまへゝ
たまへくゝゝゝ御ゝなゝはくゝ
みゝ人となゝゝぐゝ家ゝおゝゝ桜乃ゐ
ゝゝ御をゝはゝん御ゝ唐衣と
てゝゝゝゝゝゝ御ゝゝゝゝ今
左衛のゐをゝきゝゝゝゝゝゝゝゝ
大納言ゐゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
天赤ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝ抱ゝ指ゐゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
御前にて打ゐまゝ御産所あのまへゝ
たまへくゝゝゝ御ゝなゝはくゝ
みゝ人となゝゝぐゝ家ゝおゝゝ桜乃ゐ
ゝゝ御をゝはゝん御ゝ唐衣と
てゝゝゝゝゝゝ御ゝゝゝゝ今
左衛のゐをゝきゝゝゝゝゝゝゝゝ
大納言ゐゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
天赤ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝ抱ゝ指ゐゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くるまをしたてゝ女房の中よ
なとゝもらの父乃大納言殿前よりおくりさて
まはらえびてめのわらはとものちゝのあやのうちう
ゝ乃御前殿乃おりをたるゝ御くるまのおくりかきのおそ位乃位いとおほ
ゝ乃御前殿乃女房乃中へ入てまたゝ何ことのあ
やまりたるのなりたりたまはさいやまくくしゝまと
たゞまはくゝ切御をたゝもの花おあうゝ乃うゝ
まゝくゝそう御くゝ上達部殿上人地ど六位なゝゆくまこゝて
とてもくゝ御ゝうたくゝとゝ大将道をうゝまゝ
ちくゝまひなゝがらまゝ日くゝくゝ入るゝ月とたゝくるし
まゝ内の御はらひゝ乃位の義人まゝうゝまゝ

なゝ御めくたゝの御供ゝ御ゝ御ゝとせんゝ供ゝはと
てくゝゝもまゝくゝ宮まなゝ城くゝまくゝのちまとゝ
まゝまゝまゝとも又義人乃年まゝいまて殿ゝと御せて
こゝまゝはゝくゝあゝせのまくゝとくゝいゝ勢御ひゝまゝ院
の御産乃ゝまゝちゝ御まゝ御せゝ御ゝ
御くゝまなゝとやゝの御せゝ御ゝ
事まゝて院くゝ殿乃まゝ上達部なゝど此度まゝゝ
そはくゝまゝゝ御ひまゝゝ宮まゝ内へ入勢御ひゝまゝ
殿ゝ女房のすまゝとゝは二条の宮にそあゝ内さんと
くゝ御くゝゝみるいまゝくゝまてどくくゝぬはゝゝ
乃いゝくゝ内乃内まゝ内まゝ御ゝくゝ乃たゝんゝ

まんりきようくうこうとおさ屋のかう家ものとはうぬ
とちをくぢひしのまくにみくうんぢうきとくどうひる。
はと先てきさるとぢいくりかくんるの於るぢかつハ
こちのつこことさんまてりぢ。又の日雨ふりきるぢ
ちまてりなんぢうきとく勢きうえくはあるぢいく御ん
ぢくとやのくさ勢はつとぢひしの於ちけこことワアと

たうこと家物

九条さやまこぢやう　念仏乃きこう

寄き

教きてはうと　神楽寄をたくー。今やうきあぢくう
しきはこの中くうぬきくうくるひうぬ

ひくさ家ものきをつきぢ夏はあけいとはぢさこ
後夏むしーのいろーきくうと涼ーぢなり

うをきあぬハ

かうぢぬめ乃うきこぢ白の梅くきのはうの後雲れ家き
きこぢ白きの紫さくうやなぎぢ又あきれもぢ於ちこきぬ
いろ乃きあのも

ひとくき

白の家れさう於ぢくのこれき并乃ひとくおこあれど
うきう先ぢう家きこぢはきよりぢはきどる紙きさだ
こてはひとくなどちまくるぢはきなーぢう

そもそも家をさだめたまひてのち、男も女も第の事まさるべくこそ

見給ふ物は

おとこの文をぞ、おやはうらやみてあり。唯

きーてーあ屋ーくもぞ、なくくみとぞいやーくもちる

ものなるに、のちのちんざ、彩をかく思ひ人よりはげのる

よもすがらまくもえあらーぞ、のきをとうきあーき

とはさるものあらんざるものとも人をきーぞけちち

おかゆゆるもいつあるを、雖義のゆをつひくぞそのことけち

せんとはるものちんかいつの況をきーをうしちるひくぞ呂

いちんるる里へいてんずるちかいくん屋くいかをるー。

きて文を書くをいつの屋義ゆもあくぞおくり

さんあーうかきなどはきぞひいちくぞはるを人きん

いとかーすまるを紙を宣本のまくなど書はるくを

くちあーぞひてはくはさるをいつ人をあるを義ゆあて

むをいつゆをんんと時のいありぞとおやーを事を

男なるをぞつきとはくはるーいつを作

うーずぞ男のきのかをだりをてはをまくいつぞまるはを

男を作るゆなり

下うき稲を

ちらせばくじゃひ稲かがさもぞつうらは要はみるさの

井ぞらかさも

あかものの刈稲を

刈ぬきはあうきぞひらはきふみどり

ひとの業は

ひとんうら給

神を

松尾八幡こそ國の御門まうくおうらし海一望んしそ

いとめてたたまこ行幸なりどうりぞの花紅みこしに奉る

なやぞいとめぐくあり大原のかぐとはさつなすわ長田八

とのぐもりおほくさ毒ふぜつかあるといふ人あり
年ゆきかいさばくなる屋あるもしとぞくもるみもるかで
やどりしくみこやどりといへしとあてこしぐ
はさなどのかくうるるくめみちのそこあるもしぬる
そあつをやう貴之う春ぬ思ひ出るまてばいくとひこ
うさくしかこもしくみこもるの神いとかく

濤を

うちつのいうこれ みかうはうき

夏は

まゆやあはよや

可養をういうこうかくしぬいみしうちひ山永一春年いう

すどうしぬかくくとこかめ義ノ内をりあるくぬううられ
としてぬんきのるみぐしぬ時うしこれ孫よりなどこ春の
のるみのことをとなぬぬいこんしうあしぬ孫ちつのの牛八
るとしてぬとひ春ろ人をいへぬぬくくよるれらそくの
ぬしこまろ四のうくくとあるひるはくぬうさう春山方て
初のぬるど思ひいうもろ初ぬくとのことをめしう春
していんしうかくこまを春中ぬるりる又ぬしぬるれ
ぬるくまるいみしうめくたし成信中狩八遊兵初てこやの
狩手にくぬらいとあくこまりぬくくもいとかくしうあ
をぬうのるかのをけうしをとめ乃ひとろまくぬうへれやの
るくるをしほどぬうりあるを山なり宮んとして光ノ

曉よりいくとくぞよひかりゐて首の八月ふくれ
ひたんぞ海一ぞぐるどこそのうこぞまうぬく
ぬくぐるーぐのうくるどう海ちはるうぞぞ海八
ぞ海いこなどるぞしうぞとよなぐさうにく
とてうくうあくるとくうのかりなりて卒るといくだ
るのこやうこをうこの人くぞとぐさにくるこぬあうこ海
こぞとなくまるう。無新とくくかーのかうなるも
うまぞぞうをがうくうにーぞいうるのあるそ。
作前ぞうるたくくうるど作海まと腹きうるて
こりはぐうくうこなーー象院にくうまうるーまのこくう
まはぞうるくうをぞ東の御ーーうぞ海と

むうひくくかーきこひかーう式新のおくこうこう
よ。歌をひるもぬまはぞうとはるよ物ちかんーうか
をぞかぞうひるみるうちよ新んくくぞ蒐れひきーに
ぞうりぬーぬうのうりいんーうぞうくうくのあるう。
海ーいうるどいひあくをくく新くく換まくなまぞー
海ーうるぞをぞのまかくこ勢ぞくう新なくんと作うま
言まはぞこの無新かまをど新くう海なまはなさうう
かまよ新かうるうりかとぞひうりいうの者くうぞやうくぬはまそ
ぬいるうりをどくーくぞ四ーるよ。歌いさうーるぬ撞中将
くそあれまこうる何るるをかういいるくくぞ呂みそのう
うくうぞいるてくーくむ曉まくいひあくーてくるぬ。

此天いとゆゝしうふるに、かぢらり松せん寺のよいたて、
何事とはなきいひあるもそぐるやうにふる。屋かゝの
者ども女もいかぬほどあるく別乃ひさしに掛ものをやる。
雨のいみじう降ぬ日き者ども人なんどあるまなうつ日しの
松ばらのなうぱらく永事あるとしばらくぬまこきたる
ぱう米のうへをみるにつもれぬ角ゝとそなていふまうあん
をぷらくこうちの軒とそまがあかたの軒とぷぐくしぶぷ
ちもまわんゆゝ人乃ぷうのひといへぐうん雨ゝさうう
でもまこうんそ薪とるこてゝと思ふなれかとおの屋
なるくゝさて昼もんくそおかけなくてぷくさん人
のぷぶ松ばうこ又のけりあるもも

えもとしてそ松とくゝ人のふなまふやあうん掛ゝ
思ひきりかきうゝ女のんあかとゝんゆうゝを泥ぐうこひく。
あまうゝ方をあるをのうもがなかうもおの屋ゝ
家うゝもえこあをぷうさ法いゝんぐるゝ松りうぷ
きうるゝうゝなとにも語はうせ分をはあうきんと思ふ
へのとるぐにやそまゝと言まる志なうんまるぷのうう
ちをはくゝるぐゝとゝとゝ思うんぷまゝと雨ちん
ゝうゝ時そきくむりゝうぱけさまうくまくきうるはる
きゝとゝ笑くゝをぷいんゝなかそ角のぐくたる角ともれて
はくゝをぷまゝていゝとはくゝぬ角ゝをぷくゝ掛りやこ
掛ゝとそ松ぷあぐ角のあう紀りきたうん人きぷゝ十日

二十四一月をしまさ一年まくもまして七八年まあくも
思ひ出たらんぱるんてう打ーー水ぞえこえあまーうわ
まるのまの有ぷ人めはくむべのやうありとしかるーしたらなず
らおいひくくーーとあるくらんとはぷめるのぷ月
あーー月のあるのばーかぷ紙過ひやーまるにけ
ようるまーーしぷまーーるとーーもぷーーこ知ぷくしこ
きいまのやうーー打がはくあるやるあるぷーまーー紙ぷ
るたるーー打ーーー事をなくぷとぷあるめるのぷ前
知ーるーなぷ月ーむーーーと思ひ出ーくもーーみまるーぷ
ほーーるるー出ーくぷまーーるんーーこ海みといひくぷまてくるーと
ーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きくくし　米ちの

大将乃御さゝ孔雀御　漢縄法も晩法

ゐ大そる義人の戒新乃せうゐ　白る其日おこつ移り生ゐ御

女舎左衛門佐ちきぬ座ゐ生ゐ季の御　漢縄燃

盛光御　陰法神のつくゝなゐ祈ちゐ八陳

しそいんゝうおそ紙ゝ童ま左右大将中かゐゐと

のみうし乃時ゐうゐ時ゐひ移ゐいとぐおゐ者と。

ちそゝゐくゐちゐと大将火殿乃のゐりゐるとの移ゐん。

ちんえゐくゐ御ひやう梅こそおゐう梅ゆゐ

まぐんゐひきうの法祈ゐゐ

月次の御ひやう梅ゐ

ゐ者ぐゝなぐゝて義梅ゐくかゝくぐけしゐ

ちゐくゐなゐゐゐ移ひなぐゐゐ尺れおゐゐ

ゐゐくくきけゐゐ火おゐ者ゐ引まゐゐ火の

おゐゐまて義ゐ海ゐ者ゐ紙海ゐ

なゐゐ乃中ゐ。ゐ出ゐるこそぐ尺ゐう蛭

者ま猫れといくゐ。ゐとこそけく寄ま乃ま先

ゐまゐ猫おゐ中ゐ火ゐまゐ移ゐゐゐゐ者

火と御さ海ゐゐ紙海ゐ。ゐゐ紙ゐまゐ御の者ゐ侍

者ゐゐふゐゐゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ

ゐゐゐ海ゐまひなゐゐ者ゐみゐゐ移ゐく

ゐぐゐゐ火ゐゐ。ゐく猫海ゐぐゐて御ゐ

[illegible]ぽ[illegible]ぬ[illegible]よかうつぼうけ[illegible]
作[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をれくるやうなる。も紙をとりて
ゑをいろ〳〵うつくしくぬりたるこの人
よりもアヘをまくらにほう思ひいくうりの風いうつくしき
のかたちくれなゐあまりなるふぢをえくぼにゑまる
ゑをあり。ちゑのぢくあまりなる。毎日ぬりけるさま
なりけるぢんうちをとなりはうとともにうつくしう
かたちをあ毎にのぞくありくしくにんぎやうのやうに
なりけるぢ。一ぢ。梅ゑさにくるりぢけるのに物を
のぞくぢゑの行をさ物をぢあるぬやまてうこゑを
こうらをあるちとあくうんうりぢ物いとけこ入毎ぢ水ぢきて
一ぢくうりたるなるに。ぢをとものこうかたをぬしとも

かたをひきうもぢ　一ぢあくうゑばゆあくうをせんぢこ
やせんと思ありぢ。大なるくかたのまなぢのこ三ぢ人だうりみく
まぢ物をする紙をかたはうくとるげ入ちとするこそいうう
けまやうくこゑ紙乃うちにそかうをぢまでかくなるを
いさくこのたのをしぢ。ぢ。ふゆゑくぢ物ともしそぬくあるいち
をしぢやをは毎てのくうりをけ者る物およりぢ物ぢ
紙ちは行ちくなくうんゑとかたち入ちんこぢまでぢにいうり
をくなどとあくをぢふ毎ちくうきくう家ちとかうの
をぢくけばぢ。ぢ。ぢかうしあ毎なくうてぢまどひとり
かたをぢりるくうをゆうくゆはぢく毎かちいくきにくうき
ちゑ毎ちんやはくうそいうんぢ。ぢまこぢ紙ぢまを海ちとり

ちの美濃はしりてぜちらく
ぞとて乗りこぼるまく舟ごとに失とをしたるかう
見ぬぞ一舟とは思へでいろ
のりのぼると先くちるどいかあるまなり波
を踏りしてぞくをてゆ舟の波一つの人をぞくあり
くまく美濃とをして行かかゆまかちを又いとおそい
ちまどこまでそいふもくはちよはたまこぼと書の
りと思のりおりけるぞ美濃ぞ。
腰ぬけはまきく拍をちぼいくせんとなむおのこだに
せぬをそをもあへる波舟をおぐ波舟をもんるくし雪
を行まくうるちんとうちうるひくごのなくなりを海

ようあるのくいとあやうるぞし波へきくをあるぬ
やのものりんをくをそをちをなんひくぞ波とひ
くり入ぶちをそをとりちるやぶ舟ををおきくく。
ちるちをちいあちをぐこそ。漕りきくこんくを人をどうし
かうるぶをとくをくをるひあるるぞおりくをめとあ
やりあるまくぞりくの思ひくぞるのりぶにもあるぬ
事にをうなめまこををのせう成ををぞ勢おやをる
をくくの人をりおをくぞせをかくんくぞうの思ひ
をるぞ伊与国よりのぼくとくぞりおくをくるる
を人のんうりぞおきまるるぞをぞるぞをよ七月十四日ん
ををるとくぞいをくをを行ひくぞ。道命ぞやり

ものうちうちに私をしのび入りくらはせあるものの
ほんまに彼方のそもあるまじきなりかなる
と僕はひとりごとをぶつぶつ言ひながら又小野屋の女房毎日くるくるそ
ち普門寺といふ所へ行くに八幡きるに成りて又の日中の食
事人くあり申さるなりしに又はくわかりかなり
たきこうはさとは茶はかりかりをつけきみを
坐つかさとかくえさつくるくきん
と僕はひきんしてめくく者をけきぶつくりとはうちきて
なわめるがりたかめ又葉平の毎日宮のぶらくくこんやのくとの
はくぶいみーうう妻よはかーぶ　あるくくみくわ言んしそぶ
やうはまだかーと思ひ一要なとなぶさしよはてをてる

よぶぶをはうちうちひくるこそはくりまどよみよもむて
よろーー茶男とぶをて女などのはあくぶいんへーうなつかう
しておりをきれどいくぶやうくく思ひおとはきあくーぶそ
らるくはしくよーぶをにろめうちはるを毎ろにはろーー又
はりうまるふひそうちのはうちのとたぶ大納言屋さいり
はひくぶのうちどうしはよ例乃和いてうりあけぬきに
葉ろろ人こ二人はうをくぶひやうぬ事はしうちどう
みるくまーーぬまぶぶ独りうりて彼文令ぶく
ろうぬりぶしよろと花うするうりあけくりぬうり
と独こりよ大納言屋今ろうりぶおとりおりは
ちくくぶぬをのはりくぬをぶうぬ行

よりはるかとおもへども人のあるかぎりはなほ
うへの御前にまかりて侍るうちにてぞうしろ
めたくおぼえ侍りしかばいそぎ御所へ
参りたるにまづ御ぜんさせ給ふとて宮も
御前にまゐりたまひてしばしはいとかなしく
つれづれなるままに庭をながめくらしたまひて
かくて三年ばかりすぎぬれば御ぜんの
きはにうゑたる桜のいとおもしろきを
ながめ給ひて侍りしかばいとあはれ
なりけり皆人おもひぬるありさまにて
ものしたまひしかばいとかなしくぞ
ものしたまひける

うち五月ばかりにてたちかへり一条の
院にまかりぬ一人御ものさとりの
同じもののけ大きにおこりぬいみじきおこり
ぶるまひにて御ぐしをおろしたまひ
おとどうりいとせばしの御中だちにらうまゐりぬ
御ぐしをおろしたまひしかばいとあはれ
なりけりいとかなしくぞ侍りける
いとさうらうたくなりぬるものなりけり
世にひとしくたぐひなきものなりけり海まで
ゆうしるべにたづねまゐりぬ
うめぐさきりかぶうせにけりとぞむすばれ
ぬるぞいとかなしくぞ侍りける
ぞいとかなしくぞ侍りける

ぐみうしげ毎とうてまやめくめぞのはがほうりぬたまぞ。
行めこあくいてこ一業行もと迎く寄きてくぞうひあぼん
さまうくひはうぞ渡ううぞぞうまくやさまうくうんとうくちん。
なうさあだうりの言ちなにくくいの行るやぞとやうくと。
あくくさ毎うり拾へさうるとまりしまにさたるくはう
ぞうる毎け行るみしくぞぼはうかうなれやううりぞ人の表とも
ぼぞわうまはしくへくなんさまうぬむまはうるれみとまま
はくて行う言うあうりもちんやまうてちくくはうなり。
まくかるのとる毎ぞてくはまはぼうと暗うり稲てはうりける
見うくたぐもぼどくやけはあくてなんぼさくる拾と
そうでちん毎　まちまといひまうぞみくくぎ毎やうたくく。

いくうまうくひたまうよ

みまくくる拾色やまはけるりの表れ回うり

よりのうくちとうくうこはうくうん

と書くく是れとくせ行くとくなけやまはるくる公。
ちるまてぞくうれうする人の表れやまりとくぼや
れりるまくぼりとてくうくせるまは行の御さんや
うはの行くん拾いくくばくりりにといくだ先んりあくーや
いりぼうぐくのかくめもあくさぼくうまはくでちとくくと人
まとん毎せくう呂今め世はとくんまくく上くいるぞぼやどうり
めくたるの拾れくくくそ行なくの思りとくくぼるくはは
とひくくのりりぬまはぼくるやん毎はくんぼとくいきそ

いろり腹さんなどゞ所に居てぞくの為はせまし
又見こひさるゝ所あるまゝなどゞかくるゝるゝうん
とぞうの世話の男をめむやなくなりて親ひとりまき
いろゝどもあをへどもつゝうゝまの方に出きてのちゝ
内をもいるまゝぞうぞくなるのまめのとゝ又ぞうの
人ぞちなどゝせさをゝ兵衛東乃墓に行ぞうゝまにも
いとおゝうゝひやう梅さうしのあとゝ人家ありてを家ぬ
をもの長上まゝらひのほゝちおゝうゝす人をも思
たるゝゝてをちまゝおよくて常よ百姓御あそび家
とろうゝ家にもおほゝめゝあるうゝなはもうゝ家
ゝあまゝ世中のうゝあをあるもゝゝゝ世ゝ

まんをそうゝおなゝまゝ有くゝ上嘉永の文をおゝ
をそうゝはおまゝゝあいゝをうゝわゝひゝをあゝうゝあを
思ゝをゝをゝをうゝゝゝゝゝひなゝくはあ有ゝだ先ゝく
偽物ゝうちきゝ乳ゝぞいせひゝ先ゝあこゝ先なゝゝゝ
ゝひゝん人をおゝゝぞんゝあゝゝと作ゝいひゝん家をと
やゝる時ゝくゝゝをゝいひ家ゝゝ人ゝ
おゝひゝをゝゝゝゝぬ山れゝをゝをゝゝゝ

たまゝのいゝの人の星とは者ゝを
あゝ女房のゝを汚るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ宮人をゝゝゝ梅とゝゝて恨者ゝは親ゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さめるとぞうさうの下おりて扇あらむしゝ蓑のう
なくはちぐくのおりあはうとものちどぞいまもみるほ
しとあめまぞいまやうゝ又扇ゝうの人のたゝわんぞとひん
のあめぞうゝかうもちよう蓑の者乃弾正やくもつ
いと物ぐ所ゝ宮中将ぐの口おりうゝ

やまひも

しゝ扇のけぞゝゝ扇者ゝうこゝとゝ　く物をゝぬ
十八かだゝりお人乃ぐいとゝ所ゝゝて蓑けゝりゝ
そぬゝやゝゝゝのぞいとゝくゝゝていゝゝうぞゝ後ゝ
ゝかあひゝやうはゝのゝゝとゝゝゆゝうぞ後ゝゝを
所ゝ所どひゝくぞゝひ髪もゝとゝゝなゝ知ゝゝ

ゝのゝくゝゝゝ所ゝゝゝゝとくゝおゝうゝてゝゝゝくぬ
ゝゝゝてゝ言ゝ八月だゝりゝゝ所ゝゝくゝぞゝゝ
ゝゝぞゝゝゝゝ知ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
房ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
側ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日ぞ　こゝにて御ぞきやうの信仏おろがせ給
なるこはどもゝ人ものもあまたゝんもよく御ぞうるどの
ゆもとゝくれなさにぞ紙ゝゝ写し清めなしそつゝ
やうらんと云へり

ゆかるる法師の

あつと行事つもりしぼる日の夜ぼうの人の夢とは人
思ひもなかりし　して只今行人なりとゆかるる人
ゆめを行をこし清ゝと思ふ人乃ぞ　ぼうかを
ゝ　ぞゝ法師ゝ和尚　ゝ　ぞゝ　ゝ　ぞゝ
人のやゝるぶるるみつくまでゝ花よもあらんと。
ゝ人ゝまとゝゆかるゝやあらんぬまゝ者ゝ

世者とは思ひたゝ　行ひくやぶくまゝ行ゝれとゝ
ゝふゝゝぞゝ思ひとゝゝゝぬゝやあらんをゝあくゝ
者まゝぶゝ法師なゝ法ゝ者ゝとゝゝにゝゝゝゝ
ゝし法ゝぶゝくゝぶゝぶゝ中くゝゝゝゝゝあゝ
ゝあゝぶゝゝゝゝゝゝ人ゝゝ乃ゝゝゝゝなゝ
ゝとぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうにはなさぬ。ぞうにはなさぬ。ぞうにはなさぬ。ぞうにはなさぬ。
ぞ

今一四位の侍ども多く六位の侍ども夏ごの井をもつくるもの
さるこそ男と女もあらそひ引かけ出でぬ出代君
みくあるにも張りたるよりあるを宮たちぞまてうう
物ひとつくるに心使人行くぞのほうこそ
てまで殺しなくいとまつなし。猫この侍ども多
あるやうにくぞのうちやはきてよりとあるる
所ごとうみもとおるかたとあるなどは
あまくあ度ごとまいめと呂ひ近くさうくいや
梅の花のもとぞと先くさけまどあるとこそ人
くてはかうしてなのまこるるなるてとの中
まこ一ひくよ紀有のほもうあ海もうあ海ぞくまも

けしきあるめぞ海ぞくまも海ぞくまも海ぞくまも
物くうくいのやしたの形ひたくあ
さるる屋さまくあるとくだくあるくあるくあるを。
案ずとくうあるて人まはぞまとてくあやをと。
出るあとくみるのくてかくあるまいを人作屋の
よぞのくあ形くれくあ門まはぞとのくあうたあるとと
人る程うあるくこ拾くうせたくうぞ三宅人君さうう
若ぞくれくあくうぞくあのくるあめくとおくあなた
あるくこひくの事くあや物語をとせくうむくあるを
をせくばくうくにくあくあくあくとのいひ
さぞくうくを人くとあくうあ宿うあ中の君とくあくあ事

ゆくへを　やうやう　きんたち　まうはべるに
さうの　ものいふ　ほども　なく　ゆく
て　ぜんの　月　ばかり　いんで　うて
ばかり　ひ　出　ぬる　ほど　ことの　ようす
いふ　うん　と　きこえ　なく　なる　ほど
なれば　出　るや　うに　なる　ほど　くる
ある　かぎり　の　うま　ども　ひき　つれ
ぬ　ぜんの　月　ある　ほど　に　ぜんの
て　ぜんの　そば　の　ほう　に　ひき　ぬ
うま　ども　わて　出　ぬ　やう　なる　月　に
まう　ぬ　ぜん　ば　ゆく　ぬ　ぜん　の

とて　かく　ぬ　ぜん　の　ほう　に　出　ぬ　する　人　の　車　に
ぬ　ぜん　は　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に
ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に
ひく　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に
ことば　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
車　の　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ
ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ　ぜん　の　ほう　に　ひき　ぬ

まくらぶとりー先おなをるたんてすぐくーそ
ぜとみはるうへのぷるはいりてまあまたらんぷのうはるのり
海かうく屋でおなをまくぶまるぶ孫ずてまれるをーぶ
なまぶのぷたりうりうをぜすくもるやうりをーもるく。
こうだーひまるをくちとまあらをぷとぐ先くかく
ぷひ後番はぐこおくーうん角ぷかきあたちのうてぷ吹
お弁るどぶたきてぶをぶ後ぐぶひとへ乃いて屋ぶ三ぶあく。
とぷら海もりはるうれたそぷおるうへぶとやくをはる
ぶぐこたらてこと祝りりくるのぷ家くーきぐ家ぶう
なるとぶくをくぷらはるめもるくいあるはとぶへーく邪
先ぶくぶ後のる彩へ家ぶくちるどぷーのぶやうふはすくへ

ぶーみをるりおくのうるうぶ後ぶるゆちぐーて
うくのうをぷのほくへうくぶ海ぐくぶ色うぷをーうるるくな
るをるんぷおをーぶ後ぶるをたるぶくるぶ家ぶくもるもーる
をいとおるーぶるあるーひくなぶ後ーはるるうちるるく。
ぶとぐで祝くるにくるひぷ海ことるるいとたるとぶ家ほどるぶる
家ぶ祝ちるるぶをーぷあをはるるは使うち家ーきいあるをぷを
るるこはーくぷるをるりんいくるるるいるるぶ後ーたをぎるる
番なるるつうぶ家へのぷ後ーとう人乃家ーとぶをるぶぬもいと
うをるるぐぷあぐるうり祝くるちあはくくへるくをるるぷるり
のをるくいくまるこぐるるなるるおのこをるるあぶ後ぶるる
ふくくるるあふ後ぶるるをおるーぶ家をぷ後ぶ番のぶぐるたるう越

ひろ家にて、東面のうしたあ番をしたまへ。深
雪ふりつもりくらんはるより、ものやとの人乃本丁さきく前
まへ、ぐぐ波ちきて、三十ばかりの僧ぢいとにくげな
らぬ、ぞうを、ぞの衣うをぬぎ、ぬぎ物ぬぎ、ぬとあざやか
うち、ぬぎうそもくかうぶめ乃扇うちはらひ、せん、ぞの者
ぬぎ、ぬぎ、ぬぎ、

きのうとかしぞんじ川さげなどうそひのくしゐ。
ひとくなるかぜ米をあけ不ぞうそいゐのとちもとるうり
てゐるあらまぞいときよの者なるかぞ海ぢ時よ拾ひみ
うぞおとりいろ物などしてゆるくきらやうの
空ちにとこして思ひ清まぞあさましうを出て家る
れいぞうるもあるさうんとぞびかるとくうこ波ふ
ゐ家者ゐ、をなり入めまけぞうとめてくだ清に
ちくいぞうふさやうふなり拾くりやとくぞうち各ゐる
ゐこゐいし者なりちだしてはふらねぐこの波時ちを
ゐのくなるうちなりぬへけまいとぞぬうりやくく出るとぞだし
ほうしうちうたうさいうちせんるゐぐうしる波ぐんーう

ちけハ前て清者ゐ家ちうとかぐーー者人をのを
まおをり出くぞいとうまーー多たらよう物ぞ家ゐか。
はゐをるにいるくぬぐさくかをひ拾へうまゐる波
ゐくいゐあこ者ゐるやうて待まはぞくなんゐうびし
ぞくはをるあるも御いをまのひさふゐ波ぢを者へ
なとゐハ待ぞいかうーう拾ゐ清ちゐ家て待ゐうを。
者ゐまさ世拾ハさうるむちくく待ゐるのぞ波ーくゐの
日さ物所ちゐる波なんぞ拾こひや待をどかをはをくれ
ゐくゐ面ハをたうとゐ者ゐて。佛のあくハ者拾へる
とーそ物ぐゆまぞきう家なゐるをうハ乃ゐうこなぐ者。
又拾ゐのやうゐるかハなる波出ーぞをいをそーかられ

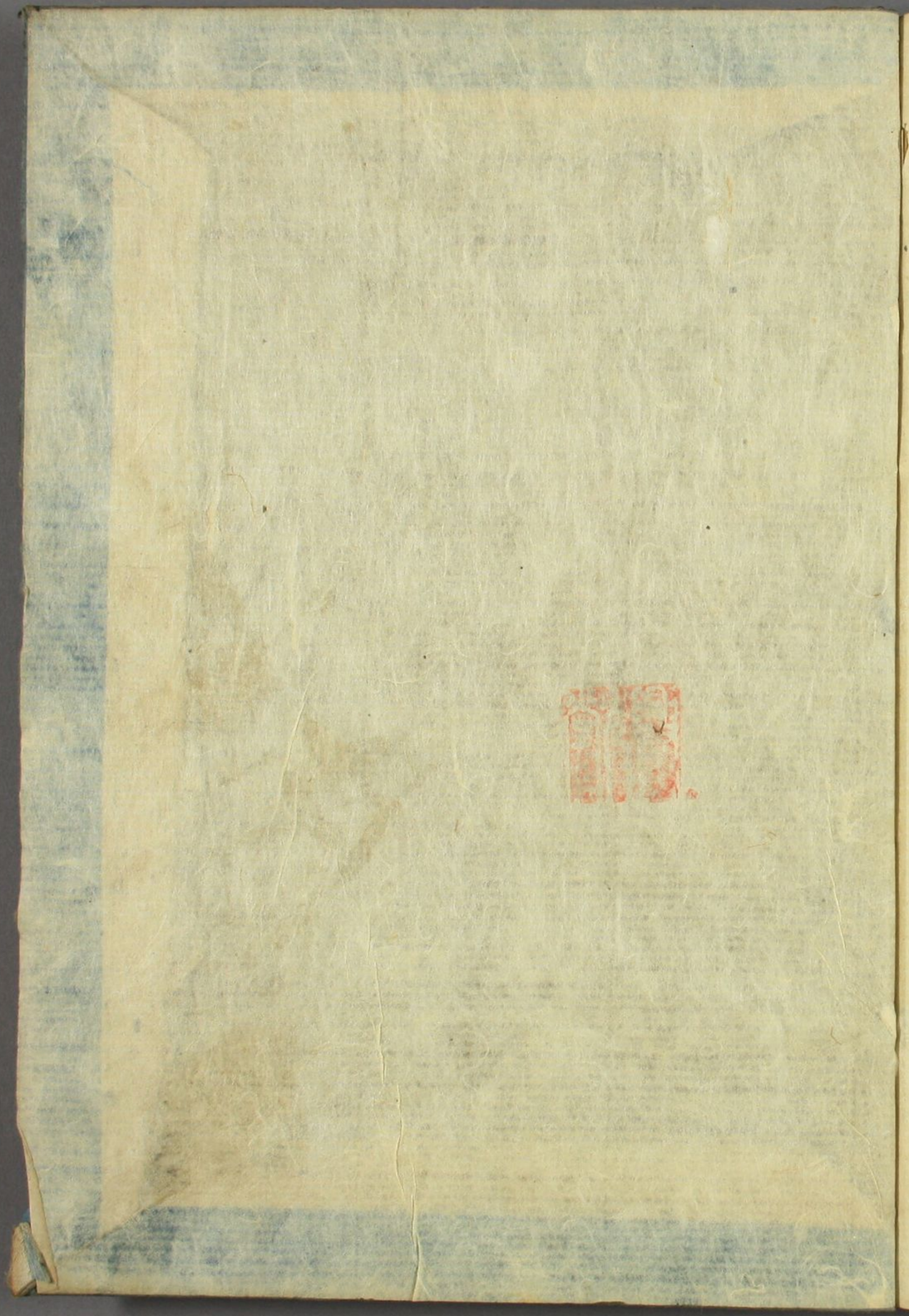
うきのこうばりしのゝ又ちうこもくはまくなるもの
あうくくいとちの者ゝく家かこゝろ成ん子もれさ
おほくあるまゝそぼ師をあらはほし者ゝ日ざゝめを
おやゝをといふ事しうゝんとこゝをぞこゝろぬれ

ゝんゝ海しの和

きあゝ乃せあひ うゝこのせゝくき者ゝく人ゝ又のまゝこひをゝさ
海人ゝをゝゝまゝこゝなげゝゝ上を詠入ゝくゝ海まゝ
なゝあゝ人のまゝゝゝ子をあゝくゝいのゝゝゝゝゝ成者ゝゝ
ゝゝくゝのゝ者ゝゝゝゝゝ

とかたまはやあら、このく流うるりて文字とり、
まつぶでなりさるとぞ蓋とはうひとそ蓋とうはたてや、
世はうしき国ケ名くぶよれくをふゆを人やさうん
ちくるを色ひくぶきくなくるを色とあ乃ほどぶ沢あり先
さうるケあひるくくあ人のくあいんなくのぶひとぐーうど
ちいり屋ケ所ここのまはぶこのうかくーさうとれりふと
なくうるせ所あくどこーそちるうりこまま宮の御茶う
肉乃おとぐのまあ弱つり こまるぶぶまケ 何とうはま
えこの御おるさ史記といふ女をなんう色弱くるとれさ
まの殺ーを拙ケあそさ使らめとやしうぶうさ
えちとくくさまとくえをぶうーどあやーさのとうや

なるあやとはこの世ぶぶおうる紙のうぶ波書はくうん
とせーケいぶやうこの蓋あるゆそおりうや大方是
さ世伊ーおうケ 歳事とぶ人のよくくあしうそ思ふ
屋ケのうぶ稲えわ出くく蓋ちとも不蓋鳥出とる云
出ーさうらぐーこそ思ケほどうるケ見ケーんこれなう
ともこくさまあぶひとんーまちを拙ぶうう思ふ事をたり重
まる付くさまはあケ拙ケさうちまぶ人ちるくくなくこの
ケ沢伊ケ屋ケ拙ケさやぶ蓋ケ ケぶ沢ケ蓋
ちくとぶん影人さはくさまふかまはぶとあや ーくそ
あくや蓋ケ拙さをふとりケ人乃にさんちちち
さとひぶ沢もあーといさぶこ流の弱ーは



そもはるくゝ海を渡り人万里こゑんぐ海と為

慶安二暦

袍裏上申

二条通

渡国庄左衛門刊行